

「清水庁舎整備の方向」についての考え方

静岡市長 難波喬司

1. 「考え方」の提示の目的

「清水庁舎整備の方向性」については、私は、市長就任前から、これまでの静岡市の説明は、「わかりにくい」との印象を持っていました。市民の皆様にも同様の印象を持つ人は少なくないと思われまます。

新市長は、市長就任後、市の職員と意見交換を行い、「わかりにくい」と思っていたことについて理解を深め、市民の皆様によりわかりやすく説明をする必要性があります。

今般、市の職員と意見交換を行い、「どういう意思決定が行われたのか」も明らかになりました。そこで、それについて説明するとともに、今後の清水庁舎の整備の方向性を提示します。なお、私は、市政運営において、「開かれたわかりやすい市政」「根拠と共感に基づく行政執行」を重視しています。

2. これまでの市の説明

(1) 説明内容

①2017年度 新清水庁舎建設基本構想を策定

2011年の東日本大震災を受け、清水庁舎の耐震性、津波被害等について検討し、2017年度、基本構想として「清水駅東口公園に移転建て替え」を決定。

②2020年度 市と JCHO が、桜ヶ丘病院の移転先を清水駅東口公園の一部とする基本協定書を締結

これにより、清水庁舎の移転先予定であった清水駅東口に十分な面積の用地が確保できなくなったため、新たな検討が必要となった。

③2022年度 清水庁舎整備検討委員会を設置し「整備の方向」を決定 (整備の方向)

- ・清水のまちづくりの状況を踏まえて、現在の清水庁舎を改修する。
- ・改修後の耐用年数は20年以上を最低条件とし、第3次診断等の結果を踏まえ、清水庁舎に必要な機能・性能を満たす合理的な改修内容を判断して整備する。

④2023年度 第3次診断を実施し、改修内容を判断

(2)これまでの市の説明のわかりにくさ

①2017年度に、耐震性等に問題があるので移転建て替えとしたのに、(疑問①)2022年度には、なぜ、耐震性等については、改修により、原位置で対処可能としたのか。原位置改修を選択したのは、耐震性に関する判断が何かかわったのか。

②(対外的には、十分な情報発信が行われていないが)2022年度の検討では、年間の施設費用(ライフサイクルコスト)では、「原位置建て替え」案がもっともコストが低い。(原位置建て替え:4.30億円/年。原位置改修/耐用年数20年:5.45億円。原位置改修/耐用年数35年:4.93億円)

(疑問②)なぜ、ライフサイクルコストが最も安い「原位置建て替え」案を選択しないのか。なぜ、原位置改修案の比較では、よりライフサイクルコストの高い耐用年数20年案を選択するのか。

(疑問③)耐震診断結果は信頼性が高いのか。判断の根拠となる耐震診断結果次第で、案の優劣が変わる可能性があるのではないか。

(3)これまでの市の判断の理由(難波の見方)

原位置改修案、移転建て替え案等の代替案からの選択法についての、これまでの市の論理展開は以下のとおりであったと推察する。

①代替案について、費用(ライフサイクルコスト)やまちづくり方針等の多数の評価項目(2022年度の検討では13項目)を総合的に判断して、決定したとしている。客観性のある評価においては、各評価項目の重要度に応じ、評価項目の配点に重みをつけて、点数評価をするのが普通である。しかし、静岡市の評価においては、点数による客観評価は行わず、定性的な総合評価を行ったとしている。

②このため、総合評価においては、どの評価項目を重視するかという委員の「主観評価」が重視されて、案が選択されている。委員(又は市政)の主観は「新庁舎は将来、清水駅東口に設置すべき」に特に重きをおいて判断している。

③この結果、2017年度の基本構想においては、清水駅東口公園内に用地が確保できる状態だったため、「清水駅東口移転建て替え案」が最適とされた。

④2022年度の判断においては、清水駅東口に十分な用地を確保できないため、「原位置改修案」または「原位置建て替え案」を選択せざるを得ない。ライフサイクルコストを重視すると、原位置改修案より、原位置建て替え案が優れている(年4.30億円対年5.45億円)。しかし、原位置建て替え案を選択すると、将来の

清水駅東口移転建て替えは実現できなくなることから、「清水都心地区のまちづくり方針との整合性」という評価項目に重きをおいて、原位置改修案を選択した。

(4)市の説明のわかりにくさの理由

代替案の中から、「原位置改修/耐用年数20年」を選択した理由は、上記のとおりであるが、この判断は、何に価値を置いて判断したかという「価値判断」の一つである。

価値判断をするのであれば、そのような価値判断をしていることを明示すべきであるが、市の説明にはおいては、様々な評価項目から総合的な判断をして決定したかのような説明になっているが、実際にはライフサイクルコストよりも、将来の清水駅東口への移転の可能性に重き価値をおいて、判断している。この判断根拠がわかりやすい内容で示されていないため、私を含む市民の目線からすると、どうしてそういう判断になったのかわかりにくい状態となっていた。

3. 今後の方針

現時点において、清水駅東口には、庁舎の移転先としての十分な用地がなく、かつ、清水庁舎の耐震改修は緊急を要するものである。

ライフサイクルコストの点では、原位置建て替え案が有力であるが、建て替えには時間を要する。

緊急回避策として、原位置改修案を選択することとするが、耐震診断については、より精緻な検討が必要であることから、精緻な耐震診断を早急を実施する。